



1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input checked="" type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、重点目標「考えを伝え合う子どもの育成」を目指し、「地域とのかかわり」（「地域とつながるプロジェクト」）を通して、「つながりを尊重する態度」「他者と協力する態度」「多面的・総合的に考える力」の3つの資質・能力を高めるとともに、よさや課題に気付き、地域への愛着をもち、地域をよりよくしようと主体的に関わろうとする児童の育成を目指して活動を行った。

具体的には、福祉教育、防災教育、国際理解教育を柱に、みんなとつながり合う心を学ぶ学習、地域の防災学習、文化の多様性を理解する学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 地域の防災学習

自然災害が起きた時に身近な地域に危険な場所があることに気付き、みんなが安全に生活していくために、自分達にできることを考え、行動することを目標に学習を行った。

3年生は、「平原見守り隊」として、地域を歩きながら、危険な場所や犯罪が起こりやすい場所を見つけ、「地域安全マップ」を作成した。そして、危険な場所と安全な場所を2年生に紹介した。4年生は、市の防災危機管理室の方をお招きし、災害の現状を知り、防災のために日頃からできることを考



え、調べたことを新聞にまとめ、全校に発進した。実際に新聞紙スリッパを作成し、防災グッズの必要性を体感していた。5年生は、福岡市防災センターで話を聞いたり体験したりしたことを通して、自分達にできることやこれからのまちづくりのために必要なことを実感しながら考えることができた。

これらの学習を通して、これからの平原の未来を考え、様々な人とかかわりつながりながら住み続けられるまちづくりのために、自分達ができることを発信することができた。



○ 文化の多様性を理解する学習

平原校区には、日本で最初に石炭が発見された場所があると言われており、中国の石炭で有名な大同市にある「第十八小学校」と交流を行っている。そこで、国際理解教育推進事業を活用し、諸外国の正月を中心とした文化風習についての理解を深かめる学習を進めている。12月には、中国出身の方をゲストティチャーとしてお招きし、3年生が交流を行った。春節の行事やお祝いの料理、学校の様子などについて話をしてもらい、中国では赤色が縁起がいいことや大同市は切り絵が有名なことなどが分かった。そして、それらを参考にして、中国の友達が喜ぶメッセージカードを各学年で作成し、中国へ発送した。

これらの活動を通して、世界には様々な国があり、多様な文化や風習があること、そして、お互いの違いを認め合いながら共に仲良く協力し合って暮らしていくにはどうすればいいのか、考えを広げ、深めていくきっかけとなっている。



3 今後の活動計画

令和8年度も、福祉教育、防災・減災教育、国際理解教育を柱に「地域とつながるプロジェクト」として、体験的活動や探究活動をさらに充実させていく。そのために、

- 1 今年度の実践の評価をもとに目指す資質・能力を明らかにしながら、体系的なカリキュラムになるように見直しを行う。その際、よりよいまちづくりに参画・貢献する力や態度を身につけさせられるように、平原の「人・もの・こと」を活動計画の中に位置づけていく。
- 2 全教科・全領域にまたがるESDの実践を通して、PDCAサイクルを確立させながら、令和7年度の実践をさらに高めていく。
- 3 SDG3・11の実現に向けて実践していることを全児童に意識させ、自信をもって発信する場や方法（ICT活用等）を提案し、活動を更に広げていく。